

クラウド型デジタコ導入

早川運輸

一元管理で稼働率アップ

【長野】早川運輸（早川駒男社長、長野県川上村）では、メーカー3社の管理システムやデジタルタコグラフのデータに互換性を持たせ、IT（情報技術）機器による効率的な業務管理を徹底させている。

（俵箭 秀樹）

早川社長は「法令は、会っている。業務管理は以前、社が業務や人事労務を細かく把握することを求め始め、外になかったが、最新機能のIT機器を

と他メーカーのデジタルタコグラフ55台を同時に導入。ドライバーの日報データから業務管理の書類や請求書スピーディーに作成できる体制に変えた。

更に、12年にはクラウド型デジタコを山梨営業所（山梨県南アルプス市）の車両に順次導入。全社のドラ

イバー65人の運行や休憩などの労務管理、荷主への請求書送達までを一元管理できるシステムを構築した。

具体的には、本社や営業所のパソコン（PC）でGPS（全地球測位システム）付

きデジタコ装備車両の運行データをリアルタイムに受信し①出庫・帰庫の配送状態②空車・実車の荷積み状態③高速道路・一般道の道路区分④違反状態⑤業務連

絡のメッセージ状態——などを事務所のPCで確認。

4時間ごとの休憩を取らない、スピード違反、エンジン回転数オーバーなどのルール違反は、即刻、事務所のPCと車載器に警報音が鳴る。

早川氏は「運送業は過酷だが、労働基準監督署も時間管理を厳しく指摘する。生き残るためには、的確に運行指示を出し、稼働率を

向上させるべき。会社がインシアチブを取り、目の届かない運行までデータ管理しなければ、ドライバーの生命、財産を守れない」と言い切る。

既に、ヒーターやクーラー、追突防止装置、ドライブレコーダー、バックアイセンサーなどの安全機器類を導入し、ドライバーの健康と安全管理に努めている。

同社は63年に創業し、4

冷凍車、大型ウイング車、トラックなど計71両を保有。大手特積の幹線輸送や地元野菜をメインにあらゆる荷物を扱い、関東、関西を中心に九州や東北へも物流ネットワークを構築している。

サービス向上については「延着ゼロを維持したい。そのためには徹底した車両整備が不可欠」と断言する。



IT機器による効率的な業務管理を徹底させる

まず、トラック運送事業者向け総合管理システム「トラックメイトPro」

順次導入し、正確なデータを基に管理できるように改善してきたという。